

## **[5 月度例会] 「失敗事例」**

**日時：平成 25 年 5 月 2 日 18:00～20:00 於：近畿本部会議室**

**講師：小宮 洋行（会員）**

自己紹介とともに、現在所属している企業や自己の業務内容についての紹介に続き、1)失敗の定義・捉え方、2)上水道の失敗（事故）事例、3)自身の失敗事例、4)まとめとして「失敗から何を学ぶか」について話があった。

### 1)失敗の定義・捉え方

辞書では「物事をやりそこなうこと。方法や目的を誤って良い結果が得られないこと。しくじること」、「人間が関わってひとつの行為を行ったとき、望ましくない、予期せぬ結果を生じること」（「失敗学のすすめ、畑村洋太郎著」と定義している。

世間一般の失敗のイメージは、負のイメージであり、組織も個人も評価の低下につながることを恐れ、隠蔽しようとしている。しかしながら、昔から、「失敗は成功のもと」という言い方もあり、失敗を負と捉えるだけでなく、それをどう生かすかが問われている。つまり、正のイメージにすることも可能なのである。

また、ISO9001 では、品質管理として、起きてしまった失敗の再発防止と位置づけ、個人ではなく組織・システムに対する本質的な原因の除去により継続的に改善を行うとしている。

畑村は、失敗原因には階層性があるとし、ハインリッヒの法則なども知られている。失敗経験を伝承し活かすためには、主観的要素を失わず、暗黙知を形式知とし、さらに、OJT などにより暗黙知化することが必要である。

### 2)上水道の失敗（事故）事例

上水道の事故については、日本水道協会が、事故事例を 400 件、概要、原因、背景、対応、影響及び教訓として整理している。その中のいくつかの事例が紹介された。

### 3)自身の失敗事例

経験から判ったことは、個人では、すべての分野の知識や技術は持ち得ないことでもあり、限界があるので、該当する専門分野の人々に参加を求め、設計内容について照査を行った後、実施することが有効であり、設計情報については、設計者から十分な根拠の提示を求めることも必要とのことであった。

### 4)まとめ

失敗は必ず発生する。人間は、ミスをするし、力量には限界もある。失敗に対応するだけでなく、真の原因を突き詰め、再発防止の対策を行うことが重要である。「失敗は、大成のもと」としたい。